



# 中世の道、 鎌倉の切通しを歩く

一般財団法人地域社会ライフプラン協会  
鎌田重道

## 源

頼朝が開いた鎌倉幕府は、四方を海と山に囲まれた天然の要害である。南は由比ヶ浜、材木座海岸に面し、陸側三方（北・東・西）は山が連なりあたたかも自然の城壁のように鎌倉のまちを取り囲んでいる。大平山が標高159メートルで一番高く、他に120メートルの衣張山、93メートルの源氏山などが連なっている。

当時は尾根の頂を切り開いて連結し、防御体制を堅固にしていたようだ。人の出入りと交易のためには、海に向けて人工的和賀江島を造成し港をつくり、陸側には外敵の侵入に備えつつも山を切り開いて7つの道を作った。これが鎌倉7切通しである。東側に①名越②朝比奈、北に③巨福呂坂④亀ヶ谷坂、西に⑤化粧坂⑥大仏坂⑦極楽寺坂切通しと続く。

①名越切通しは、三浦半島の三浦氏が居城とする



衣笠城に通じる戦略上の重要な道で、幅を狭くしたり、急角度で曲げたり、騎馬などの通行を妨げるため路面に突起状の埋石を置くなど堅固な防御態勢だったことが分かる。②朝比奈切通しは、当時港があり、塩も作っていた六浦に通じる交易上の重要な道だった。この二つの道は往時の面影をそのまま残しており、中世の戦や交易の様子を彷彿とさせてくれる。

元弘3年（1333）5月、鎌倉幕府打倒の旗揚げをした新田義貞は、軍勢を3隊に分け③巨福呂坂⑤化粧坂⑦極楽寺坂の3カ所の切通しを攻め、守備する鎌倉軍と激戦を繰り広げる。極楽寺坂切通しを攻めあぐねた新田義貞は稲村ヶ崎に軍を進め、大きく潮の引いた海岸伝いに鎌倉に攻め込む。ほどなくして、鎌倉幕府は滅亡する。

現在、③巨福呂坂切通しは住宅地に同化し分りにくい。しかも途中から民地で遮断され、行き止まりとなる。④亀ヶ谷坂切通しは急坂の険しさは残るものの舗装され、二輪車の通行が認められるなど住民の足として利用されている。⑦極楽寺坂切通しは車道や歩道が整備され、注意していないと激戦が繰り広げられた切通しとは気がつかない。⑤化粧坂⑥大仏坂切通しは、今も昔の面影と自然をとどめている。

本年6月、富士山はユネスコの世界文化遺産に登録され登山者が急増している。鎌倉は選に洩れたが、今なお古都の姿を色濃く残している。中世の交易や戦時体制の面影が偲ばれる鎌倉の切通しをあなたの足で歩いてみませんか。今がチャンスですぞ。



①名越（狭さ）



②朝比奈（交易の道）



⑤化粧坂（険しさ）



⑥大仏坂（埋石）